

# 関根 和江(音楽研究センター)

---

## 『白薔薇の匂ふ夕は』

福岡県京都(みやこ)郡にある小さな町豊津では、毎年、郷土が生んだ音楽家高橋信夫と、やはり町に縁のある国語学者里見義(ただし)を顕彰する「愛郷音楽祭」が開催される。里見は小学唱歌「埴生の宿」「庭の千草」の作詞者としても知られる明治の碩学である。今年で第6回と回を重ねた音楽祭は、近隣の市町村を含めて町の人々の関心を呼び、大きな盛り上がりを見せ、最後に、参加者、来場者全員で、高橋、里見の歌を大合唱して幕を下ろすのが恒例となっている。心地よい歌声が響き渡り暖かい空気が満ちあふれる。

著者は、豊津町からの依頼を受け、音楽家高橋信夫の活動を追ってきたが、これはその調査報告を兼ねて出版された作品集である。高橋は38歳という短い生涯に、作曲18、編曲201、作詞160、訳詞594にも上る作品を作り続けた。ここにその創作活動のほぼ全容が開示される。資料収集過程の紆余曲折については拙著あとがきをご一読いただきたい。

(2002年11月 教官アーカイブ展に寄せて)